

# 大阪自治労連第23回定期大会

## 職場で、地域で“きずな”を深め 憲法がいきる地域と自治体をつくらう！



大阪自治労連は9月10日から11日の2日間、大阪市中央区のシティプラザ大阪で第23回定期大会を開催しました。大会は、「職場で、地域で、きずな」を深め、社会的連帯と共同のたたかいで、憲法がいきる地域と自治体をつくらう！のスローガンをかけ、人間らしく働くルールの確立、住民本位の自治体づくり、組織強化と拡大など「5つの柱」の運動方針を満場一致で採択。たたかいの先頭に立つ新役員を選出しました。

### 働くルールの確立 民主的自治体づくりへ

#### この秋から職場、地域で行動を

当面する秋のたたかいでは、職場からの総学習と討論で、全員参加型の闘争態勢を確立し、①11・18全国統一行動を軸に、職場・地域で宣伝、署名、対話集会などの行動を広げる、②2011年春のいっせい地方選挙をみすえ、国による「地域主権」改革や橋下府政の「財政構造改革プラン」に對抗して、住民の中に「対話と共同」の運動を広げていきます。



貝塚市職労嘱託評議会議長  
中川 知子さん  
(貝塚市浜手地区公民館職員・社会教育主事)

「みんな、生き生きと楽しんで活動しているんですよ」  
公民館のロビーには、地域サークルの活動を紹介する壁新聞がいっぱい

今年で結成20周年を迎えた貝塚市職労嘱託評議会（嘱託評）。昨年、3代目の議長に就任しました。「先輩の方が積み重ねてこられたことの大きさをひしひしと感じます」。正規職員との均等待遇をめざし、賃金でも休暇でも様々な改善を勝ち取ってきた嘱託評。困難があっても闘い続けられるのは、「みんなが仕事への誇りと情熱を持っているから」と言います。「本来は正規職員としてやるべき仕事。目標は、貝塚市職労の正規の仲間と合流することです」と決意を語ります。

#### 子育てサークルの 出会いから

公民館で嘱託職員として採用されたのが8年前。それまでは地域の「子育てサークル」を運営する公民館の利用者でした。そこで出会った公民館の職員が「あなたたちは、社会教育として、とっても大切な活動をしているんですよ」と教えてくれました

した。「その時、自分の人生に光をあててくれたような思いがしました。自宅と公民館を往復しているだけのように思っていたのですが、自分と社会がつながっていることに気づかせてくれたんです。人に光をあてることのできる公民館の仕事。「自分もそんな仕事をしたかった」と思い、公民館の職員として働くようになりました。

#### より弱い立場の 人の身になること

働いているうちに「仕事に、きちんとした対価が支払われるべきでないのか？」と疑問をもつようになりました。嘱託職員の労働条件は職種ごとにバラバラで、賃金や休暇にも格差があります。嘱託評は、職種の違いを一致団結して乗り越え、格差是正と改善をめざしています。「弱い立場の人が、より弱い立場の人の身になること」

「聞いた」という中川さん。この言葉が、自分の労働組合活動の原点にもなっています。

#### 気づいたことを大切に 新しい一歩を

仕事では、保育・子育てなどをテーマにした講座を担当したり、「子育てサークル」にも関わっています。「いろんな悩みを抱えている地域のお父さん、お母さんたちには、ここで社会とのつながりをつくってほしい。公民館でいろんな人と出会って、ハッと気づいたことがあれば、その「気づき」を大切に、新しい一歩を踏みだせるようになってくれれば、と思います」。かつての自分の姿と重ね合わせて、訪れる人々への思いを語ります。「一人ひとり「気づき」を、まちづくりへと発展させていく。その実践を仕事で表していきたいですね。これからも、ずっと夢を追い続けて、働きたいです」



子どもからお年寄りまで、毎日たくさんの人でにぎわう公民館